

地域の幸せの創出をめざす

静岡福祉大学 学長 太田晴康

本日は、ご列席の皆様のご参加をいただきまして、静岡福祉大学創立 10 周年記念式典を挙行することができますことに、心より感謝申し上げます。

またここに、ご多用中のご来賓の方々に臨席を賜りましたことに、静岡福祉大学教職員を代表して御礼申し上げます。

本学創立時の 2004 年は障害福祉サービスの枠組みが大きく変化した年であり、また高齢者に対するケアの充実と、児童の分野では虐待が大きな社会問題となった年でもありました。それだけに、福祉にかかわる人材の専門性が問われる時代が本格的に始まったときとも言えます。

その後、2007 年には社会福祉士及び介護福祉士法の一部が改正され、教育カリキュラムに関しても大きな見直しが行われました。現在はさらに、少子化対策と子育て支援の分野においても専門職の必要性が叫ばれています。

本学の 10 年は、まさに社会から求められているこの分野のプロフェッショナルを着実に送り出してきた歩みとも言えます。すなわち、「実践力のある福祉・教育専門職の養成を通じて福祉社会を実現する」という使命を果たして参りました。これも偏に皆さまからの温かいご支援の賜物と感謝申し上げます。

さて、これからの私どもの進路を展望しますと、人口減少社会に対して、私ども大学はいかに貢献できるのかが問われているのではないかと思います。全国規模で消滅可能性都市といった言葉が聞かれるなかで、一大学のことだけを考えていたのではその使命を十分に果たすことはできません。

地域の活力を維持する処方箋は何かといった観点に立つとき、大学はきわめて高い潜在力を秘めた社会資源ということができるかと思えます。何よりも、キャンパスは若い力に満ち満ちています。活力にあふれた専門職の卵たちが羽ばたこうとしています。

そうしたエネルギーを今日お集まりの皆様と連携しながら、地域の活性化へとつなげる責任を負っているのではないのでしょうか。入学から卒業までの 4 年間の高等教育に責任を持つことはもちろんですが、卒業後も収入が安定する雇用環境を、そして、子育てしやすい、家庭を持ちやすい環境作りを、地域を支える皆様と共に保証することこそが、これからは求められているのではないかと考えます。

そうした努力によって、東京一極集中から、地域に人を呼びこむというダイナミックな流れを作ることが私たちに課せられた新たな使命にほかなりません。

これをひと言で、「地域の幸せの創出を目指す大学」と言い換えることもできます。広い意味で福祉とは、幸せの創出であります。地域に住む一人ひとりが、障害の有無にかかわらず、年齢や性別にかかわらず、障害のある人もお年寄りも子どもたちも、誰もが幸せと感ずることができる社会を創造するためには何が必要かを考えたいと思えます。

まず、地域に住む人と人の中に絆があること、次に、一人ひとりがその地域で期待されていること、そして誰もが自分の人生に希望が持てる環境づくりが欠かせません。「絆・期待・希望」の 3 つがあってはじめて、その地域に住む幸せを実感できるのではないのでしょうか。この 3 つの K を「幸せの 3 K」と呼びたいと思えます。

そうした幸せの3K社会の創生を目指し、私たちは教職員が一丸となって今後もたゆむことなく努力を重ねて参ります。

今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。